

## (体育科)

楽しく運動に取り組む ともに高め合う子を育てる体育科授業の実践

大阪市立加賀屋小学校 研究部・体育部

### 1. はじめに

本校の子ども達は、休み時間や放課後、元気に外で遊び、運動に親しむ子がいる一方、いつも部屋にいて、体を動かそうとしない子の二極化の傾向が見られた。また、アンケートから、得意な種目は好きで意欲的に取り組む一方、苦手な種目は取り組みにも消極的な姿が浮かんできた。これらのことから、いろいろな運動の経験を通して、運動することの楽しさを味わわせ、進んで運動に取り組む子を育てたいと考えた。

そこで昨年度から研究教科を「体育科」とし、研究主題を「楽しく運動に取り組む ともに高め合う子を育てる」として、研究を進めることにした。また本年度は1年生から6年生まで、系統立てた指導に取り組むことができるように、「器械運動」と「ボール運動」の2つの領域に絞り、低・中・高学年という縦の流れを大切にしながら実践を進めた。

### 2. 研究の内容

#### (1)研究の視点

- ①学習のめあてを持たせるための工夫をする。
- ②楽しく学習に取り組むための場作りを工夫する。
- ③仲間と教え合い励まし合いながら、学ぶことの楽しさを実感させる。

#### (2)研究の内容

##### ①「学習のめあてを持たせるための工夫」について

- ・技カード……動きを絵で表したり、短い説明を付けたりする他、目的に合った練習方法が学べたり、技のリズムなどを入れて表したりするなど、学年の発達段階に合わせたカードを作った。
- ・学習カード…めあてを選んだり、技カードをヒントに自分の言葉で書いたりするなど学年や運動の内容にあった学習カードを作成した。

##### ②「楽しく学習に取り組むための場作りを工夫する」について

- ・めあてを確認する場
- ・課題に応じた場、さらに力を高める場
- ・児童の実態や教材にあった場

##### ③「仲間と教え合い励まし合いながら、学ぶことの楽しさを実感させる」について

- ・グループ構成の工夫
- ・教え合う場、相互評価する場の設定

○支援を要する児童への支援・評価カードの活用

### 3. 実践事例

#### ◎「バスケットボール」ボール運動〈ゴール型〉(第6学年)

◇ボール運動は、一人一人が役割を持って動き、点数がたくさん入ると楽しいので、そのために様々な工夫をした。

##### 〈実践内容〉

- ①学習カードを活用し毎時間ごとの役割分担や、練習内容を記入し、それに合った練習を行った。

- ②コート内に斜めの線を引き児童の動きを制限した。ラッキーゾーンを設けてシュートを打てる場を作ったので、運動の苦手な子もシュートできるようになった。チーム4人の内、攻撃する人数が多くなるように工夫したことで、得点が増えた。
- ③作戦ボードを活用することにより、攻め方や守り方を具体的な形で相談することができ、ゲームに対する意欲が高まった。

◎「みんなで楽しもう マット運動」器械運動〈マット運動〉(第3学年)

◇マット運動は、技ができる、できないがはっきりしているので、それがよくわかるように、ICT 機器を積極的に活用して学習を行った。

〈実践内容〉

- ①単元の初めに、技のポイントが分かるようにNHK for schoolの動画を視聴した。この動画はいつでもタブレット端末で見られるようにした。
- ②練習ゾーンとたしかめゾーンに分け、課題に応じた場をスモールステップで設定し、自分のめあてや課題に合わせて場を選べるようにした。
- ③具体的なアドバイスができるように、タブレット端末のビデオ機能と写真機能を活用し、視覚的に活動を支援できるようにした。動画のスロー再生や一時停止機能を活用で、教え合いがスムーズになり、相互評価にも役立った。
- 動画のデータを保管することにより、実践後の評価や次年度以降の資料として活用することができる。

◎体育を支える取り組み

〈カガリンピック〉

全学年が同じカードで取り組む活動で、「なわとびシリーズ」と「うんてい・鉄棒シリーズ」があり、得意な子はどんどん難しいカードにチャレンジし、苦手な子は1段から順番に取り組むことができる。カードを1枚合格できると賞状がもらえる。

〈「縄跳び名人」の出前授業〉

技のポイントを教えてもらったり、今までやったことのない技に取り組んだりした。子ども達は夢中で練習し縄跳びに大変興味を持った。

#### 4. 研究のまとめ

##### (1) 研究の成果

- ①各学年の発達段階や学習内容に合わせた、技カードや学習カードを活用することにより、めあてを明確に持ち、達成できた喜びを実感できた。
- ②個々の課題を練習する場や力を高める場、実態にあった場などを工夫することにより、運動が得意な子も苦手な子も、意欲的に活動することができた。
- ③作戦ボードやICT 機器を活用することで、仲間同士で教え合ったり解決したりする楽しさを味わうことができた。
- 2領域に絞ったことで、系統立てた学習を進めることができた。

##### (2) 今後の課題

- ・ボール運動では、個人のめあてとチームのめあての位置づけを考える。
- ・系統立てた学習の成果を、他の領域にも広げて研究を深めていく必要がある。
- ・ICT 機器の効果的な活用方法を研究する。